

# 市議会だより

# おおだ

No.49

2017(平成29)年10月19日発行



9月定例会 9月1日~27日

●産業振興策を中心に 補正予算…P2

●業務の効率化、障がい福祉サービスの向上等を求めて8人が市政を問う…P8

●議会報告会

●ご意見ご要望に対する回答………P15



秋の運動会

一生懸命頑張りました!

久手幼稚園

温泉津地区町民運動会

編集・発行  
大田市議会

〒694-0064 島根県大田市大田町大田口1111 TEL:0854-82-1600 FAX:0854-82-9927  
<http://www.city.onoda.lg.jp/> E-mail: o-gikaijimu@iwamigin.jp



9月定例議会は一般会計、特別会計の平成29年度補正予算のほか、条例の一部改正、議員提出案件について、慎重に審議した結果、全議案とも原案どおり可決しました。



# 策を中心に



イメージ写真

## 水産業競争力強化漁船導入促進事業費補助金 599万円

広域水産業再生委員会から、中核的漁業者として認定された漁業者が、リース業者から中古漁船または新造漁船をリースする場合、リース業者が行う漁船取得、改修経費の一部を補助し、中核的漁業者の負担軽減を図るもの



## 大田市企業立地奨励金 2,327万円

大田市企業立地奨励条例に基づき認定した石見日東株式会社への助成金の交付  
 設備投資助成額 2,127万円  
 雇用助成額(10名増) 200万円

### 人事案件

#### 【異議なし】

▼人権擁護委員候補者の推薦  
 につき意見を求めること

現委員である北島規正氏

(温泉津町)および片山秀美氏

(久手町)の任期が本年12月31

日満了のため、同氏を再任する

こと。同じく現委員である小

川博睦氏(仁摩町)の任期が12

月31日満了のため、後任として

水上恒子氏(仁摩町)を推薦す

ること。このことについて、意見を求めた

ものです。任期は3年です。

### みなさんからの請願・陳情

#### 【不採択】

北朝鮮問題をめぐる国際的緊張の高まりを平和的に解決することを求める意見書提出

(請願者) 安保関連法(戦争法)の廃止を求めるしまね総がかり行動実行委員会 代表 井上寛司

(理由) 国に提出するには時期として問題がある。また地方議会が扱う案件として馴染まない。

#### 【継続審査】

日本政府に核兵器禁止条約の調印を求める意見書提出  
 (陳情者) 新日本婦人の会大田支部 支部長 清水信江

# 9月 定例市議会

平成29年9月1日(金)～9月27日(水)

平成29年度補正予算案など  
原案どおり可決



## 主な補正内容



**現年土木災害復旧事業**  
**2,677万円**

本年7月の豪雨災害による被災箇所の復旧  
測量設計 5箇所  
復旧工事 16箇所



**放課後児童健全育成施設整備事業**  
**1,022万円**

久手なかよしキッズクラブが実施する  
施設整備について整備手法を改修から  
新築に変更

その他の補正	補正額
大田市不燃物処分場対策費 (大田市不燃物処分場整備事業の前処理施設・管理棟建設工事におけるインフレスライド額に係る紛争事件の和解による和解金6,748万円・弁護士報酬540万円)	7,288万円
庁舎施設修繕費 (老朽化した市議会本会議場の照明設備の改修 蛍光灯152灯撤去 LED照明94灯新規取付)	450万円
肉用牛振興対策事業 (第11回全国和牛能力共進会出品、和牛生産受精卵移植支援事業)	234万円
老人福祉推進事業 (仁摩老人福祉センターびしゃもん浴場のレジオネラ属菌が法定基準値を超えたため、利用者の安全確保をするために浴場全設備の洗浄等必要対策費)	157万円

の提出

▼地方の道路整備 (社会資本整備) 促進を求める意見書

感謝決議

▼竹腰創一市長の退任に伴う

〔2件とも原案可決〕

**議員提出議案**



# 認定する

平成28年度の決算(一般会計、特別会計、企業会計)については、決算特別委員会を設置し審査を行い、全件認定しました。

## 一般会計及び特別会計歳入歳出決算

	歳入決算額	歳出決算額
一般会計	237億 172万円	232億2,336万円
特別会計	137億1,177万円	135億3,778万円

### ●一般・特別会計決算審査特別委員会

◎委員長 ○副委員長

◎河村 賢治 ○福田佳代子  
有光 孝次 塩谷 裕志  
月森 和弘 石田 洋治  
三浦 靖 小川 和也  
森山 明弘



河村 賢治 委員長

平成28年度一般会計及び特別会計歳入歳出決算認定審査を行った。市税他の収入状況、事業の執行状況、主要施策の成果、提出資料の説明を受け、質疑応答を行った。主な質疑、意見については、以下のとおり。

#### ◎歳入

##### ①法人市民税

**問** 均等割の部分、法人数が13減少したが、税収は950万円近く増えているがなぜか。

**答** 農協の合併により島根県農業協同組合となり、法人の区分が変わり大規模法人となったのが大きく影響している。

##### ②固定資産税

**問** 固定資産税が増えている。平成28年の新築は何件か。

**答** 大田町37件、久手町23件、長久町21件と多く、全体では135件である。

#### ◎歳出

##### ①どがなかなか大田ふるさと寄付金促進事業

**問** 寄付者への返礼品について、寄付金に対する割合の推移はどうか。

**答** 返礼品は、平成26年までは1万円の寄付に対し3000円だったが、平成27年から5000円に増やした。しかし、総務大臣の通達により、平成29年9月から3割以下の返礼に変更した。1万円の寄付に対し、税別2500円の商品40品を用意している。

##### ②地域交通対策事業

**問** 地方交通対策、バス路線委託料及び補助金は、一般財源から1億円を拠出している。効果的な見直しが行われていないが、どう考えているか。

**答** 公共交通の見直しは本年度から行うこととしているが、大きく減額はできない。市としては、もっと利用促進を図り拠出を抑えたい。

一方、国から特別交付税で8割が対策費として入っている。制度がある間に検討をしていかななくてはいけないと考えている。

##### ③防災行政無線増設整備事業

**問** 防災行政無線の追加要望が出ているが、平成28年度の10局で終わるか。

**答** 平成29年度にも10局増設している。聞こえにくかったスピーカーは、30Wから50Wに出力増幅工事を行った。



▶防災行政無線

##### ④市営住宅等長寿命化計画策定事業

**問** 内容について、どういうものか。

**答** 老朽化したものは除いて、修理によって耐用年数が過ぎても使えるように長寿命化を図っている。修繕のできない古い住宅に住んでおられる方は、他の住宅に引っ越すこともお願いしている。

#### 主な指摘事項

①サヒメルや小豆原埋没林公園などの県施設のホームページから、キャンプ場以外市の施設はリンクしていない。もっと連携をとっていただきたい。

②肉用牛振興対策事業について、全国和牛能力共進会にも出品されたが、もっと幅広く支援していただきたい。「島根では大田だ」といわれるような対策を事業化してほしい。

③教育委員会の中学生職場体験事業で、大田市内131事業所が受け入れをしている。これは大変な地域の方であり大きな事業となっている。他部署や高校なども連携してほしい。

④学力・教育力向上プロジェクト事業では、多くの事業が行われている。しかし、学力調査の結果からは、勉強不足である。特に、家庭学習の時間が不足している児童・生徒が多いと思われる。希望者のみでなく、青少年交流の家など宿泊施設も利用し、学校に通いながら家庭学習の訓練をするよう検討してほしい。



# 平成28年度決算審査全会計決算

## 公営企業会計決算

### ●公営企業会計決算審査特別委員会

◎委員長 ○副委員長

- ◎胡摩田弘孝 ○清水 勝
- 石橋 秀利 ○木村 幸司
- 大西 修 ○小林 太
- 松村 信之 ○森山 幸太

	収益的収入	収益的支出	資本的収入	資本的支出
水道事業会計	11億1,509万円	10億2,389万円	3億6,474万円	7億2,475万円
病院事業会計	42億4,080万円	43億9,033万円	7億9,553万円	9億1,785万円



平成28年度大田市水道事業会計利益の処分及び決算認定、平成28年度大田市病院事業会計決算認定について審査した。その結果と経緯、主な意見について報告する。

### ◎水道事業会計

**問** 県内で一番高いと言われている水道料金の見直しはないのか？

**答** 高額の水道料金を支払っている企業への対応策や、高い水道料金が定住化や子育てに支障をきたしているのではないかと。一カ月の平均使用料金は月20tへ入るまで、月額4914円となり県内8市では最高額となる。ただし、標準家庭の月額の使用料は約16t前後で、月額料金で約3900円前後となり、8市の中では一番目となる。

定住対策、企業誘致、産業振興の観点から、工業用水や一般の水道料金を値下げする方策として、県内でも一般会計から補てんをする施策をとっている市もあるが、当市では、これ以上の一般会計からの繰り入れは考えていない。

**問** 一昨年は悪臭やカビ臭の苦情があったが、その後の対応や現状についてどうか。

**答** 原因物質吸着に効果がある活性炭の注入量の増加や、水質管理体制の強化、県と連携し、ダム貯水池水位低下対策などを実施することに対応した。



▲三瓶ダムに設置してある噴水(水質保全設備)

**問** 水道料金の収納対策について

**答** 新たな滞納の発生防止に向けて、定期的な給水停止通知や、未納者への納付指導を強化し、納付意識の向上に努める。給水停止や停止通知の実施件数は減少している。

### 主な指摘事項

- ①なお一層の経営努力により、少しでも水道料金を安くしていただきたい。
- ②老朽管の計画的な更新をお願いする。

### ◎病院事業会計

介護療養病床から回復期リハビリテーション病棟への完全転換により、地域包括ケア病床との連携が図られ、より充実した回復期医療が可能となり、収益の向上につながった。

費用面では、後発医薬品の積極的な採用により、薬品費の縮減や経費節減に取り組んだ結果、入院収益、外来収益とも増加。その他の医業収益において、も、公衆衛生活動収益の増加により、減価却前でも黒字決算となったとの報告を受けた。

**問** 延べ患者数の推移を見ると、外科、皮膚科が減少し、産婦人科、地域包括ケア、回復期リハビリでは増加しているが、この要因は何か。

**答** 外科の医師が期間途中で移籍したことによる。現在は新しい医師が業務にあたり患者数は増加している。地域包括ケア、回復期リハビリは病院診療の軸であり、今後力をつけたい。

**問** 若い職員の育成、中堅医師の確保についてはどうか。

**答** 今後の病院運営には中堅医師の確保は大変重要であり、関係機関や県とも連携しながら医師確保、若手職員の育成を図りたい。

### 主な指摘事項

- ①減価償却前において5500万円余りの赤字になったことは、経営努力を大いに評価する。
- ②地域の中核病院として、安心・安全な医療の提供のため、医療サービスの向上や医師確保に、さらに鋭意努力を願う。



# 【平成28年度一般会計及び特別会計決算認定議案】

定例会の最終日の表決に先立って行われた反対・賛成の意思表示である討論の要旨は次のとおりです。

## 市民を守る防波堤となったか

### 歳入

①地方交付税が減となっている。国政調査での人口減や合併算定替えの影響である。平成の大合併は市民サービス向上の負担軽減でなく、地方交付税の削減が大きな目的であったことが明確になった。  
②市税や国保料などの滞納者に対する差し押さえは15件で、換価済金額は184万円となっている。滞納者の生活実態を把握し、関係各課と連携し、生活再建に向けて支援すべきである。

### 歳出

①保育園の指定管理者制度から民営化へ移行するやり方は中止すべきである。  
②県の同和団体に支出されている補助金はなくすべきである。それぞれの団体に自立を促すことが必要だ。  
③国が一元的に管理するマイナンバー制度導入事業は、課税の強化、給付の抑制、国民監視、プライバシー漏えいなどの問題がある。

- ④次期可燃ごみ処理については、邑智郡総合事務組合への事務委託方式ではなく、市単独方式とすべきである。  
⑤らとちゃんバスの運行は、平成27年度決算でも指摘したが、平成28年度も運行された。費用対効果を考えて、やめるべきであった。  
⑥仁摩地区道の駅について、赤字にならず運営できるのか多くの市民が心配している。市民の声を受けとめていただきたい。  
⑦全国及び島根県学力調査については、教員の負担増と学校間の競争となるため参加せず、授業で子どもの学力を保障すべきである。  
⑧特別会計の国民健康保険事業は、世帯当たりの保険料が増となっている。基金を取り崩して、引き上げを抑えるべきである。  
⑨介護保険事業は258人が滞納している。無年金、低年金の方々の生活の厳しさが伺える。国からの支援を増やしたり、基金の取り崩しが必要である。



福田佳代子 議員



## 一般・特別会計とも 黒字決算であり、評価する

一昨年、宝島社による「住みたい田舎ベストランキング」において全国総合1位を獲得したことは記憶に新しく画期的である。

昨年も、引き続き「住みたい田舎ベストランキング」において、中国エリアの中で、「若者が住みたい田舎」部門で3位、総合では2位を獲得している。

大田市内に12カ所の田舎暮らし体験施設があり、定住PRサイト「どがどが」で住まい、仕事、支援制度などの情報を発信するなどの支援策が実を結び、世代を問わず多くの移住者の定着が評価されたと考える。

総合計画における主要施策の推進に向け、ローリングを行い、重点事業として、「大田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」「健康まちづくり」「定住」「産業振興とりわけ観

光振興」「学力向上や高校の魅力化」「市民の安全・安心の確保」等の施策など6項目を掲げ、その執行に取り組まれた。

また、7月の梅雨災害の復旧も補正予算を組み、即座に対応された。

一般会計収支は、4億7836万円となり、実質収支は3億9729万円の黒字決算であることは評価する。

また、市民の健康はすべての施策に勝ると言われる「健康まちづくり」は将来を見据えた課題解決策と大いに評価するところである。「健康でいきいきと暮らせるまち」と「日本一の健康保養都市」の実現に向けて努力を積み重ねていただきたい。

今後は、地方交付税の縮減、新市立病院建設への繰り出し金、可燃ごみ施設整備、公共施設の長寿命化など、ますます厳しい財政運営が続くとみられる。必要な事業費を確保するための事業の見直しや、新たな財源確保が焦点となる。さらなる行政の効率化・合理化を進め持続可能なまちづくりに努められたい。



月森 和弘 議員





◇ 9月定例会提出議案等賛否一覽

議案名等	議員名等	議決結果	賛成	反対	木村幸司	森山幸太	胡摩田弘孝	森山明弘	小川和也	三浦靖	石田洋治	松村信之	小林太	松葉昌修	河村賢治	林茂樹	大西修	月森和弘	塩谷裕志	有光孝次	福田佳代子	石橋秀利	清水勝	内藤芳秀
<b>■市長提出議案</b>																								
議案第371号 平成28年度大田市一般会計及び特別会計歳入歳出決算認定について	原案認定	16 : 2	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
議案第372号 平成28年度大田市水道事業会計利益の処分及び決算認定について	原案可決	18 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第373号 平成28年度大田市病院事業会計決算認定について	原案認定	16 : 2	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
議案第374号 平成29年度大田市一般会計補正予算(第2号)	原案可決	18 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第375号 平成29年度大田市国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	原案可決	18 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第376号 平成29年度大田市介護保険事業特別会計補正予算(第1号)	原案可決	18 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第377号 平成29年度大田市病院事業会計補正予算(第1号)	原案可決	18 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第378号 大田市営住宅条例の一部を改正する条例制定について	原案可決	18 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第379号 和解について	原案可決	18 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第382号 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	異議なし	18 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第383号 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	異議なし	18 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第384号 人権擁護委員候補者の推薦につき意見を求めることについて	異議なし	18 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
<b>■議員提出議案</b>																								
議案第380号 特別委員会の設置について	原案可決	19 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第381号 特別委員会の設置について	原案可決	19 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
請願第5号 北朝鮮をめぐる国際的緊張の高まりを平和的に解決することを求める意見書提出方について	不採択	4 : 15	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	○	●	○	○
議案第385号 竹腰創一市長の退任に伴う感謝決議について	原案可決	18 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
意第17号 地方の道路整備(社会資本整備)促進を求める意見書の提出について	原案可決	17 : 0	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	退	○	○	○	○	○	○	○
<b>■陳情</b>																								
陳情第13号 日本政府に核兵器禁止条約の調印を求める意見書提出方について	継続審査				議会閉会中の継続審査(民生委員会付託)																			

※定数20名、うち議長(内藤芳秀)は採決に加わりません ※○は賛成、●は反対等(反対、継続審査、態度保留等々) ※欠は欠席 ※退は採決時に退席



# いっぱん質問



市政に対する一般質問は、9月6日、7日に行われ、8人の議員が執行部の考えをたしました。質問と答弁の要旨は次のとおりです。掲載する質問事項は、紙面の都合上、広報広聴委員会で選定し、1人1議題としています。(内容は、ホームページ(<http://www.city.ohda.lg.jp/>)で閲覧できます。)

▲あすてらす前の公園で遊びを楽しむ相愛保育園の子どもたち

## 仁摩道の駅計画案の再検討を

魅力あふれる道の駅となることを目指し、  
精査検討を進めている



福田 佳代子 議員

は、物販やレストランの利用者を40万人の6割、約24万人と見込んでいます。

また、近隣の大森・仁摩地区の年間観光入り込み客数をみると、平成27年度実績で43万8000人、新観光振興計画では、平成33年度目標値を約55万6000人と見込んでいる。さらに三瓶、温泉津への入り込み客や道路利用休憩者、地元のみなさんの利用を加味すると、妥当な見込みであると認識している。

現在、駅長候補をはじめ、運営団体予定者と、魅力あふれる道の駅となることを目指し、事業計画策定に向け駅舎規模、収支シミュレーション等の精査検討を進めているところである。年度内を目途に、改めて提示させていただく。

### 質問

仁摩道の駅は、平成33年春のオープンを目指して準備中である。産業振興などの拠点としての期待もある一方、赤字になるのではと不安をもつ方も多くいる。温泉津ふれあい館は、仁摩・温泉津道路が開通した影響を受け、平成28年度利用客は前年に比べ、69.35人減となった。計画案の年間利用客40万人は過大な見積もりではないか。駅舎は大きすぎる。再検討すべきと考える。

### 答弁

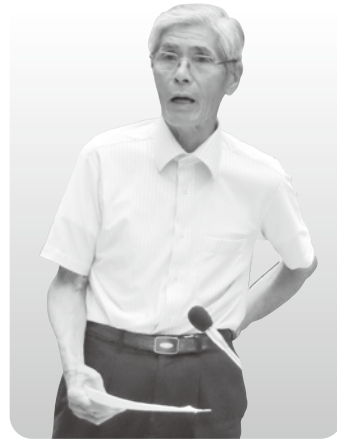
整備計画においての40万人は、道の駅に立ち寄り寄られる来訪者の年間総数を想定したものである。収支シミュレーションで



▶仁摩道の駅建設予定地(仁摩町)

## 重点公共事業の円滑な実施を求める

情報の周知に努め  
着実に事業の進捗を図っていく



清水 勝 議員

### 答弁

新市立病院の早期開院は、大田市の最優先課題であり、引き続き市と病院が一体となって鋭意進めて行く。

大田市駅周辺東側まちづくり事業は、大田市の財政状況等を鑑み、3年の事業延期としたが、今後はワークシヨップなどにより意見集約を図り、各種計画との整合性を図りながら事業を進めさせる。

都市計画税は、仮に廃止した場合の代替財源の確保や公平性など、さまざまな観点から検討した上で、廃止できる状況がない。平成26年度においては、当分の間現行通りとし、新たに用途地域となった区域内に所在する土地、建物については課税をしないこととした。

行政文書のあり方は、管理規程を設けて、きちんと保存している。

公文書については、積極的に公開し、請求に基づき、法の範囲内において公開している。



## 小型無人航空機(ドローン)の有効性と活用策は

業務の効率化につながり、  
多岐にわたる分野で活用が可能である



三浦 靖 議員

きない危険な場所での写真や映像の撮影、監視、調査、点検などに対応できる。このことから、ドローンの活用は有効だと考えている。

活用策については、三瓶山などの上空からの映像撮影による市のPR映像の作成や、災害発生時における行方不明者の捜索、公共施設や橋梁、道路といったインフラの点検、調査業務など、多岐にわたる分野での活用が考えられる。

空の産業革命と言われるドローンへの注目が高まり、その活用策は多方面にわたる期待されている。特に、災害対応や農業、物流などの分野での可能性は広がっており、他の自治体では実際に導入し、利活用を始めたところもみられる。

当市としてドローンの有効性をどのように認識し、どのような活用策が考えられるか所見を伺う。また、県内他市の導入・活用状況について伺う。

### 答弁

既存業務のコスト削減や省力化が図られること、また、人が容易に足を踏み入れることがで

県内他市においては、7市のうち5市が市のPR動画の撮影や文化財調査、災害発生時の道路状況の確認などの業務でドローンを活用している。うち2市についてはドローンを所有し、市職員が操作を行い、実際に災害現場の状況確認や施設の点検で使用したと伺っている。

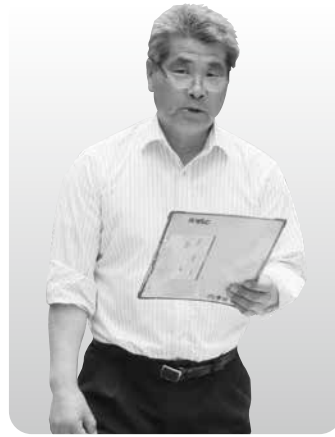


危険な場所等の映像撮影が可能(ドローン)



# 改正された大田市農業 活性化プランを問う

## 若手就農者や将来に向けた 魅力的な施策を検討中である



胡摩田 弘孝 議員

識している。

今後の後期版では、認定農業者への経営安定、後継・継承者確保、集落営農へのリーダー育成、基盤整備、新規就農者への経営負担の軽減対策など総合的支援に取り組んでいく。

仁摩道の駅整備では、運営内容、出店方法や直売に係る集荷体制を、駅長候補者や運営団体予定者と、また、加工や商品開発などの機能については、地元のプロデューサーや関係団体、瀬摩高校・農林大学校などと協議のうえ農業振興を促していく。

**質問** 大田市農業活性化プランは、儲かる農業、担い手確保、地域特性を生かした農業施策を施行することを目的に、本年3月改定版(後期)が作成された。そこで、中山間地域を抱える当市にとって前期の進捗状況や取り組みの成果、反省点などを踏まえて、今後の農業振興の取り組み(後期版)にどう生かされるのか伺う。

**答弁** 前期の取り組みの検証として、農業就農者の高齢化と共に就業者数は5年間で3割の減少である。兼業農家の離農などが著しく、農業収入の低迷は、高収益作物への転換が進んでいないためと認



▶ハウスの野菜栽培の様子

# 保育園の建て替え、他の施設の 有効利用の検討結果を問う

## 条件が整った施設から整備を進めていく



森山 明弘 議員

いった開口部を塞ぐなど、建物の利便性を失うことや、基礎からの補強が必要となる大規模な工事となることから、建て替え、あるいは他の施設の有効利用を検討することとした。

大田市子ども・子育て支援事業計画の基本方針では、施設の建て替えをする場合には、公立保育園の施設整備に対する補助金がないため、民営化による有利な補助金制度を活用し、進めるとしている。

**質問** 大田市の「子ども・子育て支援事業計画」の内、保育所等のあり方について、次のとおり伺う。

建築基準法の改正前に整備された4つの公立保育園について、耐震補強工事は実施せず、民営化による有利な補助金制度を活用した保育園の建て替えや他の施設の有効利用についての検討結果を伺う。

**答弁** 平成24年度に公立保育園4園について耐震診断を実施したが、全て耐震基準を満たしていないことが判明した。このため、耐震補強工事を検討したが、強度を増すためには大きな窓と



▲公立保育園の中で2番目に古く、老朽化している静岡保育園(昭和53年建築)

## 旧富山小学校校舎の利活用を

公共施設適正化計画と連携し、  
その活用について検討していく



大西 修 議員

まちづくりセンターとしての活用のみならず、事業者・企業などによる活用や、複合的な活用も視野に入れ検討しているが、結論を見出すまでに至っていない。引き続き、「学校再編に伴う空き校舎活用の基本的考え方」に基づき、先進事例等を参考としながら、公共施設適正化計画と連携し、その活用について検討していく。

**質問** 富山町連合自治会及び旧富山小学校校舎利活用対策委員会から、現まちづくりセンターを空き校舎に移転させてほしい旨の要望が繰り返し出ている。政策企画部において、地元住民と現場確認や懇談会を実施しておられるが状況を伺う。

**答弁** 平成24年度から地元と協議を重ねている。まちづくりセンターの移転については、消防法などに基づく排煙設備や非常用照明などの多額の改修費用が必要であり、それに見合う財源が見つからないこと、また、施設の規模が大きいなどの課題もある。



▶老朽化している富山まちづくりセンター

## 聴覚障がい者に対して 支援策の充実を求める

引き続き手話の普及を推進するとともに、  
サービスの向上に努めたい



石田 洋治 議員

施しており、登録者4名の手話通訳者を要請により派遣している。周知方法については、新たに身体障がい者手帳を取得された方には、「障がい者福祉のしおりべんり帳」を配布し説明している。さらにサービスや相談窓口の周知に努めたい。

手話奉仕員の養成については、手話で日常会話を行うために必要な知識や技術などを習得し支援活動を行う講座を開催している。

**質問** 手話を言語として位置付け、普及を促す「手話言語条例」が全国の自治体で広がっている。また、聴覚障がい者のために、タブレット端末のテレビ電話機能を活用した遠隔手話通訳サービスを実施するなど、さまざまなサービスが行われている。大田市における聴覚障がい者に対する支援、またその周知方法、手話奉仕員の養成、手話言語条例の制定について所見を伺う。

**答弁** 聴覚障がい者が手続き等をスムーズに行えるよう、窓口に通訳者を配置し対応を行っている。また、手話通訳者等派遣事業を

手話言語条例の制定については、今、直ちに条例を制定するということは考えていない。引き続き手話の普及を推進するとともに、関係者と協議する。



▶社会福祉協議会において開催された手話養成講座



# 健康都市宣言をすべきと考える

有効な手法と考えているので、  
取り組みの中で検討していく



月森 和弘 議員

## 質問

昨年度から、大田市創生  
に向け、新たな政策課題と  
して、「市民の健康はすべての施策  
に勝る」との思いから「健康と観光  
を組み合わせた保養地づくり」を一  
体的に進める「健康まちづくり」の  
方針となる推進方針を策定、実践活  
動を展開されている。

## 答弁

なぜいま「健康づくり」は「まちづ  
くり」なのか。重視しているならば、  
地域課題を表現する「健康都市宣  
言」をすべきと考えるが所見を伺う。  
まちづくりについて、「健  
康」は重要であると認識して  
いる。健康を取り巻く状況の変化に着  
目して、「まちづくり」「健康づくり」の

視点を加え、「市民の健康づくりとそ  
の環境づくり」そして「健康と観光を  
組み合わせる保養地づくり」を一体的  
に推進することとした。

「健康都市」の実現は、「健康保養都  
市」の実現と並んで、健康づくりにと  
つて、重要な目標であると認識してい  
る。そのためには、今後も継続的に、市  
民の健康づくりとそのため環境づ  
くりに取り組んでいかなければなら  
ないと考えます。

「健康都市宣言」は、健康まちづくり  
を押し進  
める上で  
有効な手  
法と考え  
ているの  
で、その  
取り組み  
の進捗状  
況等を鑑  
みる中で、  
検討して  
いく。



▲三瓶山中ヘルスツーリズム～健康ウォーキングの様子

# 全員協議会の議題

議案の審査または議会の運営に関し  
協議・調整をおこないます。

## 9月1日

- ・大田市新不燃物処分場整備事業の前処理施設・管理棟建設工事に係るインフレスライド額に伴う紛争事件の和解
- その他
- ・仁摩老人福祉センターびしゃもん浴場におけるレジオネラ菌の検出
- ・2020年（平成32年）「第71回全国植樹祭」

## 9月8日

- ・大田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価検証



▶平成27年10月に策定された大田市まち・ひと・しごと創生総合戦略



▲平成32年開催「第71回全国植樹祭」(49年ぶりの開催となる)の会場候補地である三瓶山北の原

## 行財政改革特別委員長

### 中間報告



松村 信之 委員長

### 効率的・効果的な行政の運営を

8月18日に第9回委員会を開催。協議内容は「第3次大田市行財政改革推進大綱実施計画の平成28年度の実績」と「事務事業評価」の2点についてである。

国においては、6月に骨太の方針が取りまとめられ、来年度においても手綱を緩めることなく、経済財政一体改革を推進するとされている。しかし、大田市としては必要な対応を今後も市長会などを通じ、国に対し要望していきたいとの挨拶が副市長からあった。

その後、執行部より説明を受け、委員からでた主な意見とそれに対する執行部の回答は、次のとおりである。

○第3次大田市行財政改革推進大綱実施計画の平成28年度実績

#### 公共施設等の適正化

**問** 空き校舎の利活用策はいまだにないか。

**答** 空き校舎の利活用については、地元住民の意見も含めて検討しているが、様々な課題もあり引き続き検討する。

#### 再編・統合、新たなサービスの提供

**問** 指定管理、新しい保育園の建設を計画するなり、当市においても認定こども園に向け着手すべきではないか。

**答** 健康福祉部と教育部で協議を行い、また幼稚園の職員との意見交換を行うなど、認定こども園への移行に向けた検討はしているが、目標としている平成31年度までに実施することは、難しいと考えている。

#### 人材の育成

**問** 人材育成のための職員研修の充実やバランスのとれた職員配置、女性の職員数およびスキルアップの意味も含めた女性職員の研修制度はどのようになっているか。

**答** 研修実施計画により実施している。女性職員政策提言チームによる政策の検討、提言を行うなど、職員のスキルアップに努めている。

#### 税負担等の公平性と税収確保

**問** 都市計画税の不公平性については、当面の間、検討するとなつているが、行政の継続性もある中でどのようにするか。

**答** 税負担の公平性の観点から、都市計画税も含め今後も検討を続けていく予定がある。

**問** 市営住宅の収納率はどのようになっているか。

**答** 市税、市営住宅等の収納率については計画を上回ることができたが、今後の計画目標については、見直しも含め、改めて検討するつもりだ。

#### 自主財源の確保

**問** 昨年度急増したふるさと納税の用途方法は。返礼品への割合をどうするのか。

**答** 現在、4つの施策(定住促進、協働のまちづくり、銀山のまちづくり、文化・芸術スポーツの振興)に活用することとしているが、用途については、今後改めて検討したい。

返礼品の割合については、国の指導もあり9月からは3割以内で進めたい。

#### ○事務事業評価

平成29年度事業の選定を委員にお願いし、次回委員会において決定することとした。

## 地域活性化調査検討

### 特別委員長 中間報告



塩谷 裕志 委員長

### 地域からの意見を「持続可能なまちづくり」推進事業」に反映

7月27日に第5回委員会を開催。協議内容は「各まちづくりセンター単位の地域からの意見聴取」についてである。

○各まちづくりセンター単位の地域からの意見聴取

#### 案内、事前アンケート

各まちづくりセンター長宛の意見交換会のお願い文、開催概要、事前アンケート等の文書案をチェック。意見交換会の進行、留意点について協議した。

8月21日から25日に、各地区ブロック会議に各委員が出席し、開催趣旨の説明をした。



## 意見交換会の概要

開催日については、10月の第2、3週の午前、午後いずれかに開催。  
各ブロックの4地区から、まちづくりセンター長やまちづくり協議会会長、関係者のみなさんにご出席いただき、人口減少、少子高齢化などに伴う地域の諸課題について、現状の取り組みと問題点、市としての今後の支援のあり方など、意見交換ができればと考えている。

## 大田市立病院医療体制検討 特別委員長 中間報告



森山 明弘  
副委員長

## 新病院建設の早期着工に向け 慎重に議論

昨年12月定例会で委員長報告を行った後、2回の委員会を開催。病院事業管理者をはじめ関係職員の出席のもと説明を受け、質疑応答を行った。主なものは以下のとおり。

### 第13回(5月30日)

#### ○新病院建設事業の進捗状況

病院事業管理者から、少し遅れをとっているが、着実に前に進んでいるとの近況報告があった。

**問** 市民の一番関心が高い事項である建設時期について、看板等で市民にPRすることを考えていただきたい。

**答** 看板の設置については、病院の駐車場の外側を囲むように設置されている塀に横断幕を貼り付け、市民のみなさんへ分かりやすく表示することを検討している。

7月の広報おおだ、病院の広報紙「銀の風」にもスケジュールについて掲載していきたいと思っている。

また、病院のホームページでもスケジュールの変更について周知を図ってきたい。

### ○大田市立病院新改革プラン

**問** 平成31年度1800万円の赤字という説明を受けたが、その時点の医師数が27名となっている。整形外科医を含んだ数値計算となっているのか。新病院開院時に整形外科医の確保はできるのか。

**答** 整形外科の収入を見込んでいる。整形外科は、病院に対する貢献度が大きい。病院の経営上、病院の機能としても医師確保に全力をあげて取り組んでまいりたい。

### 第14回(8月29日)

#### ○新病院建設事業の進捗状況

病院事業管理者から新病院建設の工期が、当初の予定より大幅に遅れている。新病院建設は、大田市にとって喫緊の課題である。早期着工に向け、ご協力を賜りたいと挨拶があった。

**問** 事業者選定に当たり、ECI方式(※1)については、不調・不落の防止、事業費の低減の観点から導入された経緯があると思うが、結果的には入札価格に大きな差があった。プロポーザル(※2)の採点方式では問題ない

が、12億円も差のある業者を採用するに疑問を感じるかがか。

**答** 概算事業費は、税抜で85億8000万円であり、これを契約目標金額とした。決定事業者との設計協議において、様々な技術提案及び経済的提案を取り入れ、発注者の求める機能及び品質を備えた実施設計を完成させることを確認している。

**問** 12億円下げて建設するというのは、逆に心配になるが、品質についてはどうか。

**答** 施工者、発注者、設計者、三者一体となって、数々の議論を重ね、この品質なら問題ないとして採用した。

**問** 耐震性について、エネルギー棟を地上から屋上に設置することについては、3月までのVE提案(※3)の中にはなかった。南海トラフ地震に耐えられる耐震性はあるのか。

**答** 新病院の耐震性は、重要度係数I類の建築物で、通常の建築物の1.5倍の耐力を持っている。震度6強の地震を受けても補修することなく施設を使用することができる。

(※1) ECI方式：設計段階から設計者と協働して、施工業者の優れた技術と経験を取り入れる方式。

(※2) プロポーザル方式：複数の者に目的物に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定すること。

(※3) VE提案：費用を上げずに機能を向上する提案。



これまで議会報告会はあるが、委員会としての取り組みは初めてであり、委員はもとより、地域の方にも戸惑いがあることは、準備を進める中で感じられた。  
今後は、海辺から中山間地と広い大田市民のみなさんが抱えておられる地域の諸課題などのご意見を参考に、委員会として調査検討を進め、提案、意見具申し、市が進めている「持続可能なまちづくりの推進事業」の政策形成に反映できればと考えている。

# 議会報告会で寄せられた 要望・意見に対する回答です

平成29年5月20日(土)に市内7会場で開催した議会報告会で寄せられた要望・意見について、市執行部から回答がありましたので、議会からの回答と合わせてご報告いたします。全ての要望・意見については、大田市議会ホームページでご覧いただけます。

<http://www.city.ohda.lg.jp/>

## 議会に対する要望・意見

○議会報告会のような意見交換の場を今後は増やしてほしい。

### 《回答》

議会報告会は大田市議会基本条例に基づき、年に1回開催しており回数につきましては、現状でご理解願います。



▲長久まちづくりセンターの様子

## 執行部に対する要望・意見

### ◆消防・救急

○緊急自動車が入れない道路の対応をお願いしたい。

### 《回答》

緊急車両が入れない市道につきましては、現況を確認し緊急性、公共性を考慮しながら、整備について検討してまいります。

### ◆支所のあり方

○温泉津・仁摩両支所の組織見直しは、今年度、地域と行政が協議・話し合いを進めながら、来年度を目的に方向性を選択していくという意味合いであったはず。住民の理解が得られなければ動かないと思うのに、縮小の方向に進んでいる。温泉津・仁摩の住民の理解は得られたのか。

### 《回答》

支所について、まちづくりセンターの設置に伴う支所機能の変化や地域におけるまちづくり活動の更なる充実、そして、効率的な組織運営の推進などから、そのあり方について検討を進めてきました。

昨年、住民との意見交換会での意見や今後の行財政運営を総合的に検討した結果、窓口業務を継続したうえで、まちづくり活動がより推進できる体制となる地域振興センターを設置し、平成30年4月の設置に向け、その準備を進めることとしました。

その後、地元の方から、住民サービス低下への不安や地域振興セン

ター機能が分かりにくいなどのご意見をいただいたことを踏まえ、今後の進め方等について検討を行っていることとあります。

○地域振興センターに集落支援員を配置すると聞いたが、集落支援員はどのような人を充てる予定なのか。地域の各種団体が機能しなくなると思われるので、何とかしてほしい。

### 《回答》

集落支援員については、住民との意見交換会では、地域振興センターに配置することで説明していましたが、持続可能なまちづくりの推進やまちづくり活動の充実に向け、より地域に近い場所に配置すべきではないかとのご意見をいただき、検討の結果、まちづくりセンター単位の配置することとしました。

また、地域内の課題を把握し、地域住民と共にまちづくり活動を進める推進役を担ってもらおうと考えてあり、地元からの人選を想定しています。



▶「地域振興センター」へ名称変更される予定の温泉津支所(上)、仁摩支所(下)



## ◆地域交通

○安来市は地域に車を一台貸している。軽ワゴン車の配車が可能であれば、病院や買い物支援に利用できる。

《回答》

安来市で実施されている自治会輸送は、地域における有効な移動手段と考えております。

大田市では、今年度から「持続可能なまちづくり」において、地域住民が主体となった地域課題解決に向けた組織づくり・仕組みづくりを進めていくこととしています。地域がその課題の一つとして、生活交通の確保を検討される際には、安来市の例も参考としながら、積極的に支援を行ってまいります。

## ◆道の駅

○「仁摩道の駅」を整備して、「ロード銀山」との両立はできるのか。ロード銀山は利用者が減少して立ち行かなくなる心配があり、新たな道の駅は、観光客入り込み数が毎年減少している中で利用者が伸びないのではないか。

《回答》

ロード銀山については山陰道開通の影響等により利用者の減少が推測されることと見られます。新観光振興計画によりこれまで以上の観光誘客

を図ることとしており、ロード銀山には引き続き三瓶山や久手海岸などへの東の玄関口としての機能を持たせるとともに、地元の憩いの場、また地域交流の拠点としても活用しながら、仁摩道の駅や近隣の道の駅と連携した幅広い活動ときめ細かなおもてなしにより、利用者拡大を図ってまいります。

仁摩道の駅につきましても、整備計画では近隣道の駅の実績等を参考に年間来訪者数を約40万人と試算しており、現在も精査検討を重ねているところです。多くの方に利用いただけるような魅力づくりをしたいと考えております。

○農作物の出荷等、経営的に大丈夫か。

《回答》

農林水産物等の産直につきましては、地元や関係団体と連携し、生産者の掘り起こしや新規作物の栽培など、安定供給に向け連携して取り組んで行きたいと考えております。

さらに地域食材を活かした美味しい食の提供や特産品の開発など様々な魅力づくりを計画しており、駅長候補や運営団体予定者と検討を重ね、健全経営で、魅力あふれる道の駅を目指してまいります。

## ◆空き校舎の活用

○旧富山小学校を利活用してほしい。これまで市には何度も要望してきた。旧井田小学校は利活用されている。空き校舎利活用は先進事例が県内にもあるので、参考にしてほしい。

《回答》

富山小学校の利活用については、平成25年度から地元と協議を行っており、平成25年7月には旧富山小学校施設利活用対策委員会を発足し、地域と市の協働により検討されてきたことと見られます。

市としては、地元からの要望や「学校再編に伴う空き校舎活用」の基本的考え方」を踏まえ、先進事例を参考に、公共施設適正化計画と調整を図りながら、その利活用について検討してまいります。



▲空き校舎となっている富山小学校

## ◆雇用の場の確保

○新大田市が発足してから12年で5965人の人口が減少している。長久町と静間町、五十猛町の人口に匹敵する。歯止めをかけるためには、Uターン者の取り込みは重要であるが、若者の働く場所の確保が喫緊の課題であり、その施策を求める。

《回答》

働く場の確保については、「大田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、重要目標の一つに位置付け、5年間で500人の雇用創出を目標にしております。

目標の実現に向け、市では商工団体と連携を図りながら、事業者の事業活動を支援するとともに、大田地域人材確保促進協議会を通じ、雇用増の働きかけを行っております。

大田管内の有効求人倍率は、1.49倍(平成29年6月末現在)と高水準ですが、全国的な傾向と同様に求人の多い業種への就職や、求職希望の多い職種の雇用創出が課題となっており、庁内に設置したプロジェクトチームも含め、求人と求職の対策を検討し、今後取り組んでまいります。

## ◆神楽の活用

○高校を卒業して地元就職した36名の内、14名は神楽を続けたという理由からであった。この石見神楽を大田市でもっと活用することができないか。

《回答》

石見神楽につきましては、子どもからお年寄りまでの幅広い年齢層の方に対し集客力のある、大田市の重要な観光資源として捉えており、現在、(一社)大田市観光協会への業務委託により、石見銀山神楽定期公演事業、石見神楽出張神楽上演事業を実施しています。

また、温泉津夜神楽公演への補助事業、国内外の旅行会社等へのセールスを積極的に行っております。今後、石見神楽の価値向上、魅力発信に努め、観光客誘客に活用してまいります。

## ◆三瓶山の活用

○三瓶山の観光施設について、直接お客を呼び込むことをしてほしい。三瓶登山や温泉を活用し、観光客が魅力を感じるような策を考えてほしい。

《回答》

三瓶山の観光振興につきましては、飯南町、美郷町と連携し、三瓶山広域ツーリズム振興協議会として、主に山陽、関西方面を中心に三瓶山周辺地域(三瓶エリア)のPRを行っています。

今後は、女性やファミリーなど、誘客のターゲットを明確にし、登山や温泉など好まれやすい要素を盛り込んだ観光モデルコースを提供し、三瓶エリアの集客に取り組んでまいります。

## ◆世界遺産登録記念イベント

○世界遺産登録10周年記念イベントについて、今後の15周年20周年に向けて大森地区にも予算をつけるべきである。その際、地元の声をしっかりと聴いて、予算化してほしい。

《回答》

石見銀山世界遺産登録10周年観光キャンペーン実行委員会では観光活性化事業助成金事業を30事業採択し、この内大森地区で展開された



▶ 迫力あるスサノオノミコトと大蛇を舞う温泉津舞子連中



▲大田三中吹奏楽部と大田ウインドオーケストラによるコラボ演奏



▲瀬摩高校生による「一日限定ぎんざんカフェ」

## ◆都市計画税

○都市計画税の目的、使われ方はどのようになっているか。

《回答》

都市計画税は地方税法の定めにより、都市計画法に基づいて行う都市計画事業又は土地区画整理法に基づいて行う土地区画整理事業に要する費用に充てることになっていきます。

当市においては、土地区画整理事業及び下水道事業の特別会計への繰出金として使用しています。

○高禅寺自治会内の側溝の整備状況が悪く、図面を作り整備を要請したが予算がないと断られている。水が溜まりボウフラが湧くので、自治会では、年5回も溝掃除している。都市計画税をこのような側溝整備に充ててもらいたい。

《回答》

都市計画法に基づいて実施する都市下水道整備や下水道整備には都市計画税を充てることはできませんが、一般的な側溝整備には充てることができないことになっております。そのため、担当課において検討してまいります。



## ◆介護保険(新しい総合事業)

○通いの場づくりについて、利用者が多く、まちづくりセンターが手狭になっている。一般市民の利用に支障があるなら、まちづくりセンターの増改築等拡充してほしい。

### 《回答》

大田市高齢者通いの場づくり事業の実施会場は地区の実情に応じて、運営主体の地区協議会が自主的に実施会場を決定しています。まちづくりセンターで実施している地区においては、他の利用者も重ならないよう、プログラムの時間帯をずらしたり、複数の部屋を活用するなどの様々な工夫をしていただきたいと思います。

まちづくりセンターについては、老朽化や耐震化への対応などに伴う補強・改修等の整備にあわせて、公共施設適正化計画と連携しながら、施設の改修等を進めていきたいと考えております。

## ◆新大田市立病院

○市立病院の建設について、医療費削減でベッド数を減らされている。これ以上、縮小しないでほしい。また、建設の遅れがないようにしてほしい。

### 《回答》

新病院建設事業につきましては、平成25年3月に病床数を284床とする基本構想を策定し事業をスタートさせたところです。

その後、国の医療動向等、医療を取り巻く環境が急激に変化したことから、将来にわたって持続可能な病院運営を目指し、平成27年8月に病床数を229床へと見直しました。

現在は、新病院建設に向け実施設計作業を行っており、平成30年1月より建設工事に着手する予定であり、平成32年春の開院、平成33年2月頃のグラウンドオープンを目指し、事業を進めていきます。

○介護病棟を廃止した。包括ケアについて充実してほしい。

### 《回答》

介護療養型病棟の廃止につきましては、国の医療動向などの急激な変化を踏まえ、当院の担うべき役割は急性期医療と回復期医療とし、慢性期医療は行わないこととして、平成27年に決定したところです。

また、平成28年10月に島根県が策定した地域医療構想においても、大田圏域における当院の役割は同様に位置づけられており、圏域に必要な慢性期医療については、継続的に議論することとなります。

当院としては、他の医療機関や

福祉施設と連携・調整を図る中で、こうした仕組みづくりに向けて、一緒に取り組んでまいります。

## ◆教育

○西中グラウンドが狭く、広げてもらいたい。子どもことなので、早く対処していただきたい。

### 《回答》

現地確認の結果、グラウンド拡幅が必要な個所に高圧電線の鉄塔があり、また、用地取得など関係機関等との協議が必要です。

今後、事業実施の是非について、次期総合計画策定のなかで協議してまいります。



▲拡幅が求められている大田西中グラウンド

○湯里西垣内地区は小学生が2名であるが、3年後には6名になる予定。市道の幅員が狭く、スクールの利用ができない。スクールのバスの運行をしていただきたい。

### 《回答》

児童生徒の通学につきましては、現在遠距離通学に関する補助を行っております。補助基準は小学校の場合片道4km以上、中学校の場合片道5km以上で、それを超えて通学している児童・生徒に対して行っています。

またスクールの運行も、この基準を勘案しながら保護者、地域住民の協議の上、乗降場所を決定し、運行しているところです。

湯里地区においても、こうした協議を経てスクールバス運行を行っており、西垣内地区は、乗降場所である湯里まちづくりセンターから片道概ね2・5kmに位置しています。

道路事情やこれらの条件により、西垣内地区へのスクールバスの運行は困難なため、現状での運行にご理解いただきますようお願いいたします。

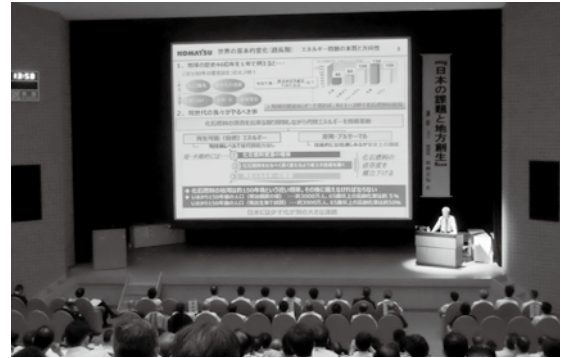
なお、児童の通学の安全確保につきましては、学校において引き続き保護者と連絡を取りながら対応してまいります。

## 議員研修会に参加

今後の地方創生のあるべき姿、  
方向性を見いだす

7月20日、あすてらすにおいて、島根県市議会議長会議員研修会が開催されました。この研修会は、県内の市議会議員が一堂に会し、共通の課題に対して認識を深めるため、毎年開催されています。

今回は、「日本の課題と地方創生」と題し、「マツ相談役の坂根正弘氏（浜田市出身）による講演がありました。日本の経済界をリードする立場から講演をいただき、「地方創生」について一層理解を深めました。



## 広報研修会に参加

手に取られ、読まれる

広報誌を目指して

8月21日、市町村議会広報研修会が、タウンプラザしまね（松江市）で開催され、広報広聴委員が参加しました。

「読者目線で親切な広報誌を作るには」と題し、「月刊総務」編集長兼事務部長の豊田健一氏による講演がありました。

議会への興味を示す内容、市民の皆さんの関心に応える企画を取捨選択しながら、魅力ある紙面づくり心がけていきます。

# 天領おどり

8月6日、毎年恒例の天領踊りに参加しました。

女性陣が浴衣姿で華を添え、ダンス・ベイダーが議会チームを引っ張りました。  
手には名前入り手づくりうちわを持って！





えっ!! そんな一面が!! 第2弾!

# 民生委員の皆さんの意外な一面



2回目は、民生委員会です。皆さんの知られざる!? (ご存知の方もおられるかもしれませんが) 議員の一面をご紹介します。少しでも身近に感じていただけたら嬉しいです。(^▽^)

福田 佳代子 議員



運動とは縁のない日々を送っているように思われているかもしれませんが、週1で「だいたいじょうぶ体操」をしています。おしゃべりしながらの体操は、ストレス発散と体力増進にとっても良いです。皆さんも一緒にいかがです?

月森 和弘 議員



こう見えて、健康志向なんです。お酒も好きですが、食事に気をつけ、毎日のウォーキングは欠かせません。ウォーキングストックを使い、本格的に歩いています。前日のお酒は、汗として全部出しています。

清水 勝 議員



高校時代から体型が変わっていない私ですが、実は間食が大好きです。議会事務局へ用事で訪れる時も、必ずお菓子を食べて帰ります。一年中、食欲の秋です。食べたエネルギーは、議員活動ですぐに消費しています。(笑)

林 茂樹 議員



妻が指導者をしているダンスクラブに所属し、6年になります。メンバーの年齢は60歳以上で、72歳の私が最年長です。意外にもキレのあるダンスを踊っています。(笑)ただ…ダンスクラブの名前は、「目ざわりダンサーズ」です。是非一度踊っている姿をご覧ください。

石田 洋治 議員



7年前から、久手小学校で読み聞かせのボランティアをしています。子どもとの接点がないように思われているかも知れませんが、実は頻繁にあります。子どもも大好きです。

森山 幸太 議員



5人の子どもがいることをご存知のみなさんは多いと思いますが、何と!! 全員女の子なんです。ご想像がつくように、とにかく賑やかです。(笑)聞き役に徹する日々を過ごしています。

## 視察受け入れ

視察日	議会名	人数	視察項目
1月26日	岐阜県中津市・恵那市	3名	石見銀山の世界遺産登録への取り組み
4月18日	北海道登別市	4名	定住促進事業
5月 9日	三重県志摩市	5名	「住みたい田舎日本一!」に輝いた大田市の移住・定住推進の取り組み
7月13日	山口県山口市	5名	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」
8月 9日	京都府宮津市	1名	世界遺産「石見銀山」への取り組みと観光客誘致

## 議会傍聴のご案内

次の定例会は12月です。

市議会を身近に感じる良い機会です。お気軽にお越しください。

◇傍聴席は定員64人です。

◇多数で傍聴に来られる場合は、あらかじめ議会事務局へご連絡ください。

## 編集後記

少子高齢化が進む大田市にあって、第3子以上の世帯割合は、平成28年度は21.5%となり、平成26年度に比べ、1.5%の増となりました。と検証されました。平成28年度に、第3子以降の保育料軽減の年齢制限を撤廃し、子育て世帯における経済的負担のさらなる軽減による効果ではないかと推測されています。

地域に小さな子どもたちの声が響く状況は、活性化の象徴的な光景であり、微笑ましく思えるものと思えます。

持続可能なまちづくりや、住み慣れた地域での生活の維持に、精力的に取り組むたいと思えます。

(森山 明弘)

## 広報広聴委員会

委員長 木村 幸司  
副委員長 塩谷 裕志  
委員 森山 幸太  
委員 胡山 幸太  
委員 森山 明弘  
委員 石田 洋治  
委員 松村 信之  
委員 大西 和弘  
委員 月森 裕志  
委員 森山 幸太